

今日の医療と生活・社会

科目責任者 小 橋 元
学年・学期 4 学年・前期

I. 前 文

今日の社会は少子高齢化が進む一方で、科学・情報技術の進歩もあって、医療においても考えるべき課題が山積している。新ミレニアムにおける医療憲章では「医師の利益よりも患者の利益に重きを置くこと、高い水準の能力と誠実さを有し続けること、健康に関して社会に専門的助言を与えること」が重視される一方、地域完結型医療実現のために、医療と保健、福祉、介護の連携が行われている地域包括ケアシステムのための医療のネットワーク化が始まっている。しかし、どのような時代にあっても医療の原点は人道主義であり、いつの世においても患者の人権をまもることが求められることは言うまでもない。本科目を通じて、社会を見つめ、社会と連携しながら人々の生活をまもるプロフェッショナルとしての医師の在り方、姿勢を学び、自らが目指す医師像を考える機会にしてほしい。

II. 担当教員

公衆衛生学	小 橋 元
微生物学	増 田 道 明
情報基盤センター	坂 田 信 裕
医事法制研究室	上 杉 奈 々
第2外科	窪 田 敬 一
血液内科	三 谷 絹 子
医療安全推進センター	辰 元 宗 人
埼玉医療センター総合診療科	齋 藤 登
外部講師	駒 橋 徹
外部講師	渡 辺 邦 彦
外部講師	佐々木 将 人
外部講師	杉 下 智 彦
外部講師	尾 藤 誠 司

III. 一般学習目標

社会を見つめ、社会と連携しながら人々の生活をまもるプロフェッショナルとしての医師の在り方、姿勢を学び、自らが目指す医師像を知る。

IV. 学修の到達目標

- 1) 医療プロフェッショナルリズムについて知る。
- 2) 医療コミュニケーションについて学ぶ。
- 3) 移植医療や生殖医療の倫理について学ぶ。
- 4) 社会における医療倫理について学ぶ。
- 5) 医療安全対策について学ぶ。
- 6) 医師の情報管理と保険診療の原則について知る。
- 7) 地域医療における福祉や行政との連携について学ぶ。
- 8) 医療における情報通信技術の活用について学ぶ。
- 9) 在宅ホスピスや訪問看護の現状を知る。
- 10) 児童家庭福祉と児童虐待防止について学ぶ。
- 11) 障害者総合支援法の内容について学ぶ。

- 12) 精神障害者の社会的支援のあり方を学ぶ。
 13) 男女共同参画・ワークライフバランスについて学ぶ。
 14) 医師に求められる社会性について人類学や社会学の側面から学ぶ

V. 授業計画及び方法

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者
1	6	1	月	1	医の原点・責務とプロフェッショナル	小 橋 元
2		1	月	2	全人的医療と保険診療	小 橋 元
3		3	水	5	精神障害者の福祉	駒 橋 徹
4		3	水	6	医療事故の防止	辰 元 宗 人
5		10	水	1	在宅ホスピスと福祉	渡 辺 邦 彦
6		10	水	2	病院感染対策	増 田 道 明
7		11	木	1	医療情報と情報管理	坂 田 信 裕
8		11	木	2	院内・地域連携クリニカルパス	齋 藤 登
9		15	月	1	子どもの医療・福祉と社会	上 杉 奈 々
10		17	水	2	移植医療と倫理	窪 田 敬 一
11		17	水	3	グローバルヘルスと健康の社会デザイン	杉 下 智 彦
12		17	水	4	将来の医師像・医療者像	尾 藤 誠 司
13		18	木	2	男女共同参画とワークライフバランス	三 谷 絹 子
14		19	金	3	医療コミュニケーション	佐々木 将 人
15		22	月	1	多職種・異業種連携	小 橋 元
16		22	月	2	医療技術と人権	小 橋 元
17		26	金	2	医療技術と人権 (ディベート実習)	小 橋 元, 上 杉 奈 々

VI. 評価基準 (成績評価の方法・基準)

出席と課題提出状況 (LMS) および試験結果で評価する

VII. 参考書

白衣のポケット中－医師のプロフェッショナルリズムを考える 医学書院

学生のための医療概論 医学書院

生命倫理と医療倫理 金芳堂

国民福祉と介護の動向2019/2020 厚生統計協会

その他, 随時, 講義の中で紹介する

VIII. 質問への対応方法

- ①原則的には、講義の中あるいは終了直後に対応する。
- ②科目担当者である公衆衛生学講座（内線番号2269, pubhealth@dokkyomed.ac.jp）が窓口になり、講義担当者に連絡する。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	◎
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	◎
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	○
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	◎
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	◎
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験の内容については非公開。レポートのフィードバックは課題による。

XI. 求められる事前学習、事後学習

シラバス別冊に記載。なお、シラバス別冊に記載が無い場合、要点を確認しておくこと。（所要時間の目安20分）

XII. コアカリ記号・番号

シラバス別冊に記載。なお、シラバス別冊に記載が無い場合、要点を確認しておくこと。（所要時間の目安20分）